



神学校週間によせて

2024.6.23(日)~30(日)

「伝道者養成の基本理念」と 神学校の働き



中田義直
連盟常務理事
所沢キリスト教会協力牧師

今年も神学校週間を迎えました。私たちの福音宣教と教会形成にとって重要な働きを担う神学校を覚え、祈り、支えて参りましょう。

さて、伝道者養成は、協力伝道の重要な働きです。この働きについて、改めてバプテスタの伝道者理解を確認しつつ協議を重ねた「伝道者養成の基本理念」が第68回総会で承認されました。そして、今年2月の第69回定期総会では基本理念に基づいた「アクションプラン」と財政計画が承認されました。

今回の「伝道者養成の基本理念」では、神学校への期待として、牧師をはじめとする教役者の養成と共に、いわゆる信徒伝道者の養成、信徒教育の働きをあげています。

バプテスタは教役者を「神の側に立つ人」や「神との仲介者」ではなく、「教会の一つの働き」と位置づけています。この理解の根底にあるのは、伝道や牧会、礼典といった働きを「教会の働き」とし、それを牧師のみでなく、教会に集う会衆が皆で担うという教会理解です。このような、「神から託された働きを共に担う」協働する共同体」をバプテスタ教会は大切にしてきました。そして、この共同体形成においてリーダーシップを担う教役者の養成と信徒教育は両輪のような関係なのです。

「幼児洗礼を認めない」という決断をしたバプテスタは、「教育」を重視します。家系や血統といったつながりではなく、「教え、伝え、学び」というつながりによる信仰継承を選んだからです。

牧師・教役者の養成と再研修の機関として、また、開かれた神学教育の場として神学校の働きはますます重要なことになってしょう。祈り、捧げ、神学校を支えて参りましょう。

■神学生の証し 学びと準備の日々



上原一晃
東京バプテスタ神学校
専攻科2年
篠崎キリスト教会推薦

いつも神学校と神学生のためにお祈りとご支援をいただき感謝します。2017年4月に聴講で東京バプテスタ神学校に入学して8年目になります。昼夜勤務を続けながら、自宅や勤務先でパソコンやスマートフォンを使用し「オンライン(ZOOM)で受講しています。芝罘谷にある神学校の教室まで通学せずに受講可能であることから学びを継続することが出来たと思います。私にとっては、新型コロナウイルス感染による唯一の功績と言えるかもしれません。オンラインでの講義は、受講生間のコミュニケーション不足が生じますが、通学日を設定していただいたり、受講生間でLINEを利用して工夫しています。

私は来年の4月以降の自分自身の姿がまだ想像出来ていません。神学生として学びを続けているのか。篠崎キリスト教会で副牧師となれるのか。他の教会からの招聘があるのか。どれも実感がないのです。但しわかっていることは、学びを続けることです。神学校ではどう学べば良いのか。そして学びを継続するにはどうしたら良いのかを学んでいます。

現在、9月まで半年間の教会実習が船橋バプテスタ教会で始まりました。礼拝や諸集会に出席し、バプテスタ教会の各個教会主義を実感し、各教会の信仰告白の重要性を感じています。貴重な体験の時間を過ごしていることに感謝しています。共に神に真摯に向かい続け、主であったらどう考え、どうするのか。を実践し続けるための学びと準備の日々に感謝します。

神学校と神学生のためにお祈りとご支援をありがとうございます。



公開講座「みんなの礼拝」授業風景

■神学生の証し 猫の手も借り給う「神の宣教」



田中敦子
九州バプテスタ神学校
専攻科1年
福岡西部バプテスタ教会推薦

神学校の働きと神学生の学びをお話して、いつも祈り、献げ、支えてくださる諸教会のみなさまに心より感謝申し上げます。

西南学院大学神学寮の「寮母」として働きはじめた11年目になります。教会では教会学校教師や総務役員などの奉仕をさせていただく中で、聖書のみ言葉に立つてものごことを考え、選んでいくこと、今ここで生きる自分自身の言葉で福音を語り直し、主イエス・キリストを証しすることの大切さと難しさを感じて参りました。教会の祈りに背中を押されて九州バプテスタ神学校の通信受講を始め、聴講1年本科3年の学びを経て、今年度から専攻科に進み喜びをもって学びを継続させていただいています。

牧会の場や困難者支援の現場で、主が先立つて一人ひとりに関わってください、宣教し続けておられることをいつも実感させられています。宣教の主体は神です。収穫は多いが、働き手が少ない。だから収穫のために働き手を送ってくださるように、収穫の主に願います。(ルカ10:2)と主は言われます。混迷を深めるこの時代において、傷つき倒れ、希望を失い、飢え渴いてさ迷う人々が巷に満ちあふれています。主は叫んでおられます。早く来て、私と一緒に働いてくれ、「猫の手」も借りたい緊急事態なのだ、と。

先立ち給う神の宣教のみ業に仕えるため、おつ取り刀でも主の呼びかけに心へ、教会と共に祈りみ言葉に聴きながら、心を尽くして主に従う「猫の手」でありたいと願っております。



「神学入門」授業風景

■神学生の証し 「信仰」による学びの日々



石原 誠
西南学院大学神学部
選科2年
常盤台バプテスタ教会推薦

日頃から神学校並びに神学生のことを覚え、お祈りとご支援を心から感謝いたします。

私は2020年コロナ禍の中で献身的思いが与えられ、推薦教会の常盤台バプテスタ教会でスタッフとして働きながら献身的や召命を見つめる1年間を過ごし、その後は西南学院大学神学部へと導かれ、あれよあれよという間に月日が過ぎ、現在、西南学院大学神学部選科2年となりました。

ここまでを振り返ると、私の心が揺れ動くことがいくつもありました。数十年前に同じく学問は不安でしたし、神学寮での共同生活はそれぞれの育ちの違い、文化の違い、年代の違いで、さまざまな思いや感情が巡る時もありました。それでも乗り合い、喜び、平安が与えられて、1つひとつ乗り越えられていくのは信仰によるからです。「あなたがたは主キリストに仕えているのです。」(コロサイ3:24)このみ言葉は私の心を律してくれるのです。

考え方、信仰の持ち方、献身観、皆それぞれに違い、その違いある1人ひとりを神さまが呼び集めてくださっていること、そこに私もいることを心から感謝いたします。



「ハブライ語」授業風景

2024年度神学校週間奨励

「献身の連続性のために」

九州バプテスト神学校 理事長 踊 一郎



日本バプテスト連盟には3つの神学校があります。西南学院大学神学部、東京バプテスト神学校、九州バプテスト神学校、それぞれの働きのために多くの方が日々祈り支えてくださることに心より感謝しています。

以前ある神学校の教師が「今日の福音宣教は難しいと言われるが、長いキリスト教の歴史の中で一度でも福音宣教が容易だった時代があったでしょうか」と言われ、本当にそうだと思います。福音宣教はいつの時代も様々な困難の中で行われてきたのではなかったでしょうか。厳しい状況下でキリスト者たちは福音理解を深め、宣教方法を模索し、それと同時に宣教者育成に心血を注いできたのです。

「油断大敵」とは「油断して失敗を招くことを戒めた言葉」ですが、その由来は「毎日、朝夕の2回、燃料の菜種油を絶やさないように僧侶が菜

種油を注ぎ足し続けている。油を断つことは比叡山で学ぶ僧侶がいなくなることを意味しており、これが『油断』の語源になった」というのです。これはキリスト教の福音宣教者育成の働きについても同様です。

連盟の「これからの伝道者養成検討委員会」が作成した「これからの伝道者養成アクションプラン及び財務基本計画」（連盟第69回定期総会承認）には「献身の連続性」が記されています。信徒一人ひとりの学びと献身が深められ、教会の祈りが積み重ねられていく中で教役者としての献身が起これていくのです。教会の明るい将来はまさにそこにあると思います。

今こそ福音宣教者の育成が求められています。信徒、教会学校教師、教会役員の皆様、主があなたの心に語りかけておられるなら、神学校での学びを始めませんか。聴講からでもいいのです。その学びはきっと楽しく有益なものになり、練達した働き人へとつながっていくことでしょう。

「神学校献金習慣？」（2024年度神学校週間にあたって）

奨学金委員長 北村慎二（宝塚教会）



今般、神学校献金の用途拡大が連盟の定期総会で決議され、連立立等神学校の支援のためにも用いられることとなりました。「西南学院大学神学部の入学者が少ないのだから、神学校献金もそれほど力を入れなくてもいいのでは…」という声を聞くこともあります。確かに収支のバランスを取ることは大切なことですが、お金が余るような無駄なことを神さまはなさらないとしたら、もっと献金を増やすことができれば、もっと神学生を神さまは起こしてくださるに違いない、と思うのです。

ある教会の献金袋に入れてある献金カード（献金記録）には、縦の行に4月から3月までとボーナス月を併せて14カ月の行があり、横の列に月約献金や感謝献金等のほか、神学校献金の列が設けられているとのことでした。その教会では、何と神学校献金を年14回献金しておられる方もおられるのだそうです。

イエスさまの十字架は、イースターの時にだけ思い浮かべて終わりではなく、毎日思い浮かべるべきものです。

また、奨学金委員会も奨学金の支給を決議して役割が終わるのではなく、その後、奨学生が卒業され、もっぱら伝道の業に従事されておられるかどうかをフォローし、近況報告や返還状況を確認して、返還金の完済と奨学金の償却に至るまでがその役割となります。就学期間も含めれば10数年間も関わり続けることになる大変の長い取り組みであり、その間に奨学金委員会も替わりますので、連続とバトンをつないでいく必要があります。

神学生のことを祈りに覚えていただくことはそれだけでとても感謝なことなのですが、奨学金献金という目に見える形で、神学生に対する愛を表現することができるのも、奨学金献金の大きな魅力だと思うのです。

神学校週間が、願わくは「神学校献金週間」の期間だけではなく、私たちの日々の祈りの中で「神学校献金習慣」となることを期待しております。

神学校献金（神学生奨学金献金）の推移	
年度	献金額
2014年度	2,281万円
2015年度	2,227万円
2016年度	2,235万円
2017年度	2,299万円
2018年度	1,986万円
2019年度	1,944万円
2020年度	1,603万円
2021年度	1,588万円
2022年度	1,555万円
2023年度	1,577万円

西南学院大学神学部及び東京・九州両バプテスト神学校で学ぶ神学生

神学生氏名（学年、よみ、推薦教会）

【西南学院大学神学部】 9名 <2024年度奨学金貸与者数：6名>	
博士前期	原田 仰(2年・はらだ こう・平尾)、吉田 睿隆(黄 イエラム)(2年・よしだ いえらむ・松本福音村)
学部神学コース	長尾 基詩(4年・ながお きし・府中)、伊藤 健一(3年・いとう けんいち・日本キリスト教会福岡城南教会)、張 恩榮(3年・ちゃん うにょん・西福岡のぞみ)
選科生	石原 誠(1年・いしはら まこと・常盤台)、大野 学(おおの まなぶ・劍路)
専攻科生	奥田 悟(おくだ さとる・東京北)
リカレント生	横濱 峰二子(よこはま ふじこ・札幌)

【東京バプテスト神学校】 8名 <2024年度奨学金支給予定者数：4名(第1回連盟理事会にて決定)> 訂正:名簿2名追加(0617改)	
神学専攻科	上原 一晃(うえはら かずあき・篠崎)、速藤 守(えんどう まもる・駿)、林 大仁(はやし ひろひと・ふじみ)、根塚 幸雄(ねづか ゆきお・横須賀長沢)、氷川 英俊(ひかわ ひでとし・百合丘)、鬼澤 寛(きざわ ひろし・篠崎)、堀端 祥一(ほりばた しょういち・日本基督教団千里ニュータウン教会)、宮下 めぐみ(みやした めぐみ・日本福音キリスト教会連合 厚木緑ヶ丘キリスト教会)

【九州バプテスト神学校】 6名	
専攻科	石橋 貞男(いしばし さだお・門司港)、篠田 裕俊(しのだ ひろとし・田隈)、海蔵 和香(かいぞう わか・都城)、山崎 誠(やまさき まこと・佐賀)、柚之原 かおり(ゆのはら かおり・長崎インターナショナル教会(単立)、田中 敦子(たなか あつこ・福岡西部)

【神学校献金】

【名称】神学校献金は従来から、西南学院大学神学部(以下、西南神学部と略す)で学ぶ神学生(大学院生も含む)の授業料と生活費の一部を支えるために、奨学金として、授業料全額を貸与し、生活費は給付ということで、用いられてきました。そして、2012年度から連立立等神学校等で将来伝道者となるために学ぶ神学生-東京バプテスト神学校(以下東バプと略す)の専攻科、九州バプテスト神学校(九バプと略す)の専攻科の学生にその校納金の80%に相当する金額を奨学金として、それぞれの神学校から支給されるようになりました。そこで、「神学校献金」の使途を明確にするために、2013年度から、「神学校献金(神学生奨学金献金)」という名称に変更しました。

【内容】西南神学部神学生には、校納金の費用として、1種奨学金を貸与し(条件を満たせば、2割は返還義務がありますが、8割は返還免除)、また、2種奨学金は、生活費及び学習支援として、返済義務のない(家族のいる者や独身者によって違うものとして、現在は支給しております。また、神学校献金の中から、東バプと九バプの専攻科の神学生

には、それぞれの神学校を経由して校納金の8割が奨学金として支給されており、こちらは両神学校の奨学金規定により返還の適否が判定されます。)

【返還】西南神学部神学生の1種奨学金の返還は卒業後4年以上伝道の業に従事し、卒業後15年以内に1種奨学金の2割以上返還した場合はその残額は免除されます。また、伝道の業への従事期間が2年以上、4年未満でも返還額は貸与額の3割または5割が免除されます。詳細は全国壮年会連合のホームページで規程を御確認下さい。

【献げ方】毎年6月第4日主日に行われる神学校週間や、年間を通じて、そして教会の経常会計からのものを含めて、神学校献金を献げられているかと思えます。全国壮年会連合は本活動を積極的に推進しておりますので、皆様におかれましては、教会全体の業となっていくことを期待しております。